

## 入選

### おもてなしの精神とは

熊本県 北部中学校

二年 梅田 愛叶

今年、東京でオリンピックが開催された。数年前に、東京が開催地に決まったときに、ある言葉がとても流行した。それが、滝川クリステルさんがおっしゃっていた「おもてなし」だ。

いろいろな人がまねをしたりして、流行語に選ばれるほどだった。でも、そのとき私は、具体的に「おもてなし」とは、オリンピックにどう関係あるのだろう、と疑問に思った。

オリンピックの開催により、選手村が建設され、7月末には競技が始まった。ニュースでも、その話題で持ちきりだった。そんな中、オリンピック中に日本に滞在していた、外国人選手や記者に聞いた東京オリンピックの感想を特集しているテレビがあった。

「日本はすごい。店に行くと、いらっしゃいませ、ありがとうございますと毎回あいさつが交わされている。」

と、外国の方がおっしゃっていた。そのとき、私は今までふつうだと思っていたお客様精神が、外国ではあたりまえではないことを知った。自分たちの国、お店に来ていただいているそのお客様に感謝し、誠意を持って接する。できる限りのことをして、努力する。この精神こそが「おもてなし」か、と疑問を解決することができた。

また、ある外国人選手がこんなことを言っていた。

「日本には本当に感謝しかない。このような状況でオリンピックを開催してくれて、おもてなしも素晴らしい。」

私はこの言葉を聞いて、日本人に生まれてきたことが誇らしくなったし、ありがとうという感謝の気持ちになった。おもてなしの精神は、人の心に伝わり、揺さぶり、人の心を温かくすると思う。

私は、この作文を書き進めていくうちに、改めておもてなしの精神について考え直してみた。書いていくうちに、おもてなしとは、人と人をつなげることができる、大切なコミュニケーションの方法なのではないかと思った。

オリンピックの選手村の運営をする方々、どこかのお店の経営者、すべての方は相手のことを考え、どうしたら喜んでもらえるかを考えている。それは、相手を理解しようとする気持ちがないとできないと思う。相手をもてなすということは、相手を思いやること。その思いやりは必ず相手の心に伝わって、通じ合えるきっかけになると思う。

人への思いやりの心は、小さな親切な行動を生み出し、その一つひとつが積み重なり、いつかこの世の中にある、いじめや差別を少しずつ解決していくと心から考え、確信した。

大きな争いごとがあっても、相手を思いやる小さな親切心が世界を変えていくのだと思う。